

令和7年度 第1回 日高市いじめ問題専門委員会 会議録

- 1 開催日時 令和7年8月1日（金）14：00～16：00
- 2 開催場所 日高市役所5階 503会議室
- 3 公開・非公開 公開
- 4 非公開理由 なし
- 5 出席者 伊藤委員長、近藤副委員長、平井委員、本橋委員、加藤委員、橋本委員
- 6 欠席者 山中委員
- 7 説明員 学校教育課指導主事
- 8 事務局 島津教育長、森田部長、志村参事、学校教育課下ノ坊課長
教育センター澤田所長、市川主幹、釣谷指導主事、長野指導主事、
- 9 傍聴者 なし
- 10 協議事項 小・中・義務教育学校におけるいじめの実態について
- 11 会議の経過

- 1 開会
- 2 会長の選出
- 3 委員長あいさつ

文部科学省によると、令和5年度のいじめの認知件数は73万件を超えているという。そのうち重大事態は、1300件以上であり、過去最高である。日高市の状況についてもよく審議していただきたい。

- 4 議題1「小・中・義務教育学校におけるいじめの実態」について
 - (1) 令和6年度いじめの認知件数
 - (2) 学校別・学年別いじめの認知率
 - (3) 学校別「いじめの態様」
 - (4) 学校別「いじめの発見のきっかけ」

委員：いじめの実態について、いじめの認知件数を児童生徒数における割合とともに示すと分かりやすいのではないかな。

事務局：より分かりやすい記載にするよう検討する。

委員：短期間で認知件数が増加している学校がある。急に増えたのはなぜか。教員のいじめに対する捉え方、意識が変わってきたのか。

委員：児童生徒数が少ない学校と多い学校で差がある。

委員：なぜ認知件数が増えているのか。先生たちの認識が変わってきたのか。

事務局：子供たちが、困ったことや辛い思いを相談するために安心してアンケートに書けるようになってきた分、認知件数が増えている。

事務局：これまで、アンケートに記入後、教員が聞き取る際にフィルターがかかっていた。いじめを早期に発見し、早期解決できるよう、市からも積極的に認知するように指導している。

5 議題2 連絡について

(1)「日高市いじめ防止等のための基本的な方針」について

(2)「いじめ重大事態の調査に関するガイドラインの改訂」について

(3) いじめアンケートについて

事務局：令和6年度に「いじめ重大事態の調査に関するガイドライン」が改訂された。全ての教職員は、共通理解をもって対応するように定められている。

事務局：いじめ重大事態の定義は第1号と第2号がある。いじめアンケートは5年間保存している。いじめの定義について、感覚の差がある。

委員：いじめを拾っていくことは悪いことではない。

委員：いじめの定義について、保護者にも共通の意識をもってもらうには、保護者会の際に、教師からアンケートやいじめの定義について説明があるとよいのではないかな。

委員：いじめのイメージはグラデーションである。入口で発見し、対応していくことが大切である。入口でのサインを見逃さないようにしてほしい。

委員：いじめは意識の問題である。やられた方が嫌だと思ったら、いじめになる。

委員：いじめの疑いになるところで、対応していくとよいのではないかな。子供が成長する時は、けんかやじゃれあいが必ずある。教師がどう見て、声をかけていくかが大事である。担任の先生が一番子供と近くにいる。忙しい中でも、からかい等を見逃さないようにしてほしい。

委員：一生懸命やっても見逃してしまうこともある。

委員：横のつながりで、チームで対応してほしい。

委員：横の連携も教師の感性も必要である。

委員：いじめアンケートの統一についてはどうなっているか。

事務局：令和３年度から市内で統一したものを使用している。

委員：小学校１年生も同じものか。

事務局：全学年同じものを使用している。

事務局：令和５年度以降、いじめをしっかりと認知し、早期発見・早期解決していこうと確認した。

委員：アンケートであがってきたものは全てあげるようになった。

委員：「いじめほどではない」という自尊心により答えにくい場合もある。アンケートのタイトルを「いじめ」とあえて言わずに、困っていることを書けるアンケートにしてはどうか。

事務局：いじめに関するアンケートは学期末に行っている。それとは別に、「生活アンケート」も行っている。

説明員：アンケートの内容については、いただいたご意見を学校に伝えていく。

6 連絡

- ・２回目２月実施予定

7 閉会